

令和3年度 田園の里 新田学園 自己評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

◎ 本年度の重点目標 キャリア教育を学校教育の基盤に位置付け、「夢や希望」「継続と挑戦」「学力・体力の向上」を取組の柱として、学校の教育目標「夢や希望をもち、心豊かにともに伸びゆく新田の子どもの育成」に迫る。小学部と中学部の総力を傾注して、地域に根ざした小中一貫校を創造する。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策
				指標別	総合	
夢や希望	「どうしたいのか」を問い続け、現在の学びを未来につなぐ教育活動	自己理解、他者理解の機会の推進	自分の良さや友達の良さが言える児童生徒100%をめざす。	自分や友達の良さを知るとともに互いを認め合う行動を基盤に据え、SWPBS（ポジティブな行動支援）の視点を取り入れていくことで、切磋琢磨できる人間関係の育成を図る。	3.3	<p>《考察》</p> <p>① 「自分の良いところ分かる」児童生徒は全学年で8割、「友だちの良いところ分かる」児童生徒は全学年で9割を超えており、自己肯定感の高さや互いの良さを認め合える児童生徒が育っていることが分かる。学校や家庭、地域の方々に育てられ、このような児童生徒が育っていると感じる。子どもが育つ地域の環境に感謝しつつ、学校でも引き続き良さに目を向けた指導を行ってきたい。</p> <p>② コロナ禍による活動制限で地域とのかかわりに影響が出ている。そんな中でも時期を変更したり、実施方法を変えたりして教育活動をつないできた。SDGsの視点をもち生活をする意識も芽生えつつある。</p> <p>③ 将来の話をする際、どうしても「就きたい職業」という視点が強くなるため、「どう生きるか」という視点ももたせたい。そのために、具体的なイメージをもたせるための指示や活動等の工夫が必要である。</p> <p>《改善策》</p> <p>1 「褒める」と「叱る」ことのポイントを明確にし、児童生徒が自分自身で自らの行動を振り返ることができるようになることで、セルフコントロール力を高めていく。</p> <p>2 コロナ収束後の活動再開を見通して、これまでの活動を更に発展させていく形で総合的な学習の時間の年間計画を再考する必要がある。</p> <p>3 キャリアパスポートを積極的に活用することで、生き方を考え学びを未来につなぐようにしたい。</p> <p>《学校関係者評価委員》</p> <p>○地域の人材を積極的に活用し、児童生徒の将来の視野拡大を図ってほしい。また、遠方の専門家等はリモートで講話等ができるのではないかな。</p> <p>○新田神楽の伝承活動を、ふるさと学習に取り入れて頂き感謝している。この後も継続して位置づけてほしい。</p>
	地域の良さと学校での学びを社会とつなぐ機会の充実	全学年で地域について学ぶふさと学習を位置付けることをめざす。	SDGsの授業の充実を図る中で、地域の施設や人材等を活用した学習を行い、地域のよさを実感するとともに学校での学びと社会生活との関連への気付きを促す。	3.2	3.3	
	進路や生き方、将来に対する夢や希望について考える機会の設定	「どうしたいのか」を考えて、行動できる児童生徒90%以上をめざす。	「どうしたいのか」を問い続け、自分の考えや在り方を言語化したり可視化したりさせることで、将来に対する夢や希望につなぐとともに生き方について考え、進路選択についての意欲付けを図る。	3.4		

継続と挑戦	挑戦できる環境を整え、挑戦する過程で成長を実感し、さらに高みをめざす教育活動	規範意識の醸成と凡事徹底	挨拶、返事、整理整頓ができる児童生徒80%をめざす。	凡事徹底の項目を挨拶、返事、整理整頓に絞って指導し、当たり前のことを当たり前に継続して実践することの意識化を図り、規範意識を醸成する。	2.8	<p>《考察》</p> <p>① 挨拶、返事、整理整頓等の日常生活の行動については徹底できると良いが、姿として表れていない児童生徒がいることが課題である。まずは、現状を把握し、そこからどのように手立てをとり指導していくのかを組織として考えていく必要がある。</p> <p>② 日常的な指導から挑戦していく姿勢が高まりつつある。</p> <p>③ 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しているとは言えない現状がある。学年間での指導や支援につなぐ際だけの活用だけに止まっている。</p> <p>④ いじめについての認識は学年が上がると「許されないものである」と意識されつつあり、指導の成果であると考ええる。また、児童生徒間のトラブルについて、当事者間で謝罪する場面を設けてもその後フラッシュバックするなど解決に至らない事例や過去のトラブルをうまく整理できずにその後も何年も抱え続けている事例などトラブルの解決の仕方に難しさを感じるケースもある。</p> <p>⑤ 働き方改革は数年前に比べるとかなり進んできてはいるものの、リフレッシュデーなど徹底できているとは言えない状況もある。</p> <p>《改善策》</p> <p>1 年度初めのきまりの確認を徹底し指導していくことで、改善を図る。</p> <p>2 大きな挑戦だけでなく、小さな挑戦の積み重ねを大事にしたい。</p> <p>3 校内支援委員会と「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」をつなぐことを考えることで、利用率が上がったり内容の充実が図られたりすると考えられる。</p> <p>4 いじめについての考えや対応は引き続き行うが、それと同時に気持ちの整理の仕方や怒りのコントロールなど、専門的な指導が必要な場合の対応について考えていく必要がある。</p> <p>5 次年度は一部校時程を変更し時間を有効に使えるような対応を行う。何のための変更かということを一一人が意識して時間を管理していくようにする。</p> <p>《学校関係者評価委員》</p> <p>○ 自己表現のできる子を育ててほしい。</p>
		挑戦できる環境の充実	「何が必要か」「何ができるのか」を考え、思いを行動に変える児童生徒80%をめざす。	「どうしたいのか」、そのために「何が必要か」、今の自分は「何ができるのか」の思考を繰り返すことで、自分の思いや考えを行動に変える意識の高揚を図る。	3.1	
		特別支援教育の充実	個別の指導計画及び教育支援計画の活用を図る教職員80%をめざす。	個別の指導計画及び教育支援計画への記録を定期的に残していくことで、児童生徒の変容を見取り、それらの計画を生かした支援を推進する。	2.9	
				通級指導教室新設の周知を行い、その効果を実感することで、利用を促進し特別支援教育の充実を図る。	3.1	
		いじめ防止と不登校への組織的対応	いじめの認知と解決に向けた対応及び不登校児童生徒への組織的支援100%をめざす。	いじめや問題行動並びに不登校児童生徒に関する情報をSC、SSW等を含めた職員で共有することで、支援や相談体制の強化を図るとともに、解決に向けた組織的支援を行う。	3.2	
		時間管理と健康管理ができる職員の育成	リフレッシュデーの100%実施をめざす。	毎週月曜日をリフレッシュデー(ノー残業デー)とすることで、時間外勤務時間の削減に努める。	3.1	
働き方改革が進んでいると感じる教職員80%をめざす。	職員が考える学校改善の視点を生かした働き方改革に努める。		3.0			

<p>職員 の 授業 力 と 生徒 指導 力 向上 による 確かな 学力・ 体力 の 向上 をめざ す 教育 活動</p>	<p>学力・ 体力 の 向上</p>	<p>確かな学力の向上</p>	<p>単元テスト80%以上、諸テストにおいて全国平均、県平均以上をめざす。</p>	<p>授業改善4+4のチェックポイント及び新富町ICT教育7つのチェックポイントを生かした授業実践を行うことで、個別最適な学びと協働的な学びを推進し、学力の向上を図る。</p>	<p>3.1</p>	<p>《考察》</p> <p>① タブレット端末の導入で授業が変わってきている。その効果はまだ検証できていないが、分かりやすい授業につなげていく活用の在り方を次年度以降も探っていく必要がある。単元テストでは8割とることができても、県や全国規模のテストにその力が反映できていない教科もある。県や全国規模のテストで力を発揮できるような対応が必要である。</p> <p>② 学年が上がるにつれて読書に親しむ機会が減ってきている。</p> <p>③ 児童生徒は、宿題に対しては前向きに考え取り組んでいる。ただ、保護者は子どもの家庭学習を支援してくださっているが、家庭学習を支援する環境づくりという点については課題が残されている。</p> <p>④ 学校では、3年生以上で実施している保健の学習以外にも薬物乱用防止教室、性教育、認知症サポーター講座等、外部の専門の講師を招いた学習の機会を設けている。コロナ禍において、感染症予防の行動はとれる児童生徒が育っている。</p> <p>⑤ 「新田学園メディアの約束」は、中学生で7割、小学生で8割の児童生徒が守っている状況であった。保護者は5割程度と捉えており、差が生じている。「先生が言わないと聞かない」というご家庭もあり、家庭での困りが感じられる。</p> <p>⑥ コロナ禍で部活動の時間に制限がでたこともあり、時間を効果的に使い活動する力が高まっていると感じる。</p> <p>《改善策》</p> <p>1 タブレットの効果的な活用法を探る必要がある。来年度全児童生徒に導入されるデジタルドリル「eライブラリ」の活用でどの程度の力が身に付くかという点についてもあわせて検証していく必要がある。複数の知識を同時に使いながら考える力を付けるための活動を行ったり問題に慣れたりしていく必要がある。</p> <p>2 隙間時間の読書を推進していく必要がある。</p> <p>3 宿題の質が今問題になっていると感じる。知識として定着させるための課題と定着した知識を活用するための課題を整理していく必要がある。また、「宿題はいらぬ」と言われる保護者の方がいるのは事実である。家庭学習の考え方を整理する必要がある。</p> <p>4 健康振り返りカードの活用など、体調や健康を自己管理できる児童生徒に育てる機会を設けていく。</p> <p>5 家庭での約束をどう守らせるかが鍵だと思うが、難しい。メディアに関する講話も実施しており、継続して実施することで、健康状態にも影響が出ることを知ったうえで、自分の行動を考えられるよう指導したい。</p> <p>6 年度当初、部活動の基本方針を保護者と確認し、後援会との連携も図りながら部活動を推進していきたい。</p> <p>《学校関係者評価委員》</p> <p>○ 本を与える機会を増やしてほしい。新しくできるコミュニティーセンターを利用したらどうか。</p> <p>○ 通学路の点検…横断歩道の線の補修（見えづらい）も要望していくと良い。</p>
		<p>読書環境の充実と読書の推進</p>	<p>発達の段階に応じた読書冊数を達成する児童生徒80%以上をめざす。</p>	<p>児童生徒会活動や町図書館と連携し、新刊図書を紹介をしたりファミリー読書週間を設けたりすることで、読書に親しむ環境づくりを行い、読書活動を推進する。</p>	<p>2.8</p>	
		<p>家庭学習の充実</p>	<p>宿題の提出率90%以上をめざす。</p>	<p>発達の段階に合わせ、家庭学習の質を高める事例を紹介することで、家庭学習への関心を高め充実を図る。</p>	<p>3.2</p>	
		<p>健康教育の推進</p>	<p>健康について考えて行動している児童生徒100%をめざす。</p>	<p>コロナ、ゲーム依存、がん・認知症教育等健康を維持するために必要なことを自分とのかかわりの中で考える機会を設定することで、健康に対する意識の高揚を図る。</p>	<p>3.2</p>	
		<p>生活リズムの向上</p>	<p>「ネットルール」を守れている児童生徒80%以上をめざす。</p>	<p>「新田学園ネットルール」を基に各家庭で情報モラルのルールを設定してもらうことで、児童生徒が「ネットルール」を意識化し、生活リズムの向上を図る。</p>	<p>2.9</p>	
		<p>効率的な部活動の運営</p>	<p>週当たり2日の休養日の100%実施をめざす。</p>	<p>「新田学園部活動の基本方針」に則り、部活動休養日を完全実施することで、メリハリのあふ効果的な部活動運営に努める。</p>	<p>3.3</p>	